

| 開講専攻 | 授 業 科 目 | 担 当 教 員 | 必修 選択 の別 | 単位数 |
|--|----------------------|---------|----------------|-----|
| 看護学 ----- 1 Semester 金・1 | 病原微生物学 | 川上 和義 | 必修 | 1 |
| 授業題目 | 感染症および化学療法を理解と病院感染管理 | | | |
| 授業科目の目的・概要及び到達目標等 | | | | |
| <p>目的・概略：感染症は全ての診療科に関連する重要な疾患である。また、近年の SARS の流行や新型インフルエンザの出現、耐性菌、院内感染など社会的にも大きな問題となっている。本講義では、感染症の原因となる各種病原微生物及びこれらに対する宿主の免疫応答機構を理解するとともに、各臓器に特徴的な感染症、人畜共通感染症、輸入感染症、エイズなど免疫低下患者に合併する日和見感染症、院内感染症、そして院内感染対策などについて学ぶ。</p> <p>到達目標：看護師は院内感染対策で重要な役割を担っている。そのために、患者と接するにあたり、自らの感染防止とともに院内感染予防の観点から合理的な対応、対策を行えるよう基礎知識の修得を目指す。また、エイズや新興感染症に対する正しい知識を身につけることで、無用な恐怖心や偏見をなくし、患者に対して適切な対応を行えるようにする。</p> | | | | |
| 授業計画 | | | | |
| 1回 序論：微生物学、感染症学の変遷、感染症法 2回 細菌 3回 ウイルス 4回 真菌、寄生虫 5回 消毒と滅菌 6回 感染と宿主反応 7回 気道感染症 8回 消化器感染症 9回 泌尿生殖器感染症、皮膚感染症 10回 敗血症、中枢神経系感染症 11回 人畜共通感染症、輸入感染症 12回 日和見感染症 13回 化学療法 14回 院内感染と感染対策 15回 期末試験 | | | | |
| 成績評価の方法及び基準 | | | | |
| 期末試験を重視し、出席状況などを加味して総合的に評価する （期末試験：90%程度 出席状況ほか：10%程度） | | | | |
| 教科書・参考書 | | | | |
| 教科書：特になし、プリントを配布する 参考書：標準感染症学第2版 斎藤 厚、那須 勝、江崎孝行編（医学書院） | | | | |